

第6章 運輸業

1. 海運

2020年の中国の貿易総額は前年度の減少から一転し、前年比1.5%増の4兆6,463億ドルとなった。輸出は前年比3.6%増の2兆5,907億ドルで、輸入は昨年より減少幅が縮小して1.1%減の2兆556億ドルとなった。2020年1月に締結された「米中貿易協議第一段階合意」により、2018年からの米中貿易摩擦が一旦の落ち着を見た。新型コロナウイルス感染症の影響から回復基調となり、輸出は2020年4月より、輸入は6月よりプラス成長となった事が貿易総額増の1つの大きな要因になっている。

2020年上半期に新型コロナウイルス感染症が世界中で広がる中、世界経済は甚大な影響を受けたが、夏場以降欧米の生産の回復により、輸出入が底を打ち、コンテナ荷動きも急回復した。尚、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による欧米における港湾混雑による滞船やコンテナの開梱遅れにより、コンテナの回転率が悪化し、アジア各国で深刻なコンテナ不足が発生している。足元新型コロナウイルス感染症の長期化はこの混乱に拍車をかけている。

船腹の安定供給のためには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下におけるスムーズな船員交代の仕組みを作る必要があり、そのための各国間での協調した取り組みが望まれる。

また、輸入割当制度においては、その運用に関して極力事前の説明が有ると、中国揚港到着後のスムーズな荷渡しへの障害が極力回避される事となり、船腹市況を安定させるのに有効であると考えられる。

以下コンテナ船輸送、バルク輸送の動向を概観する。

コンテナ船の動向

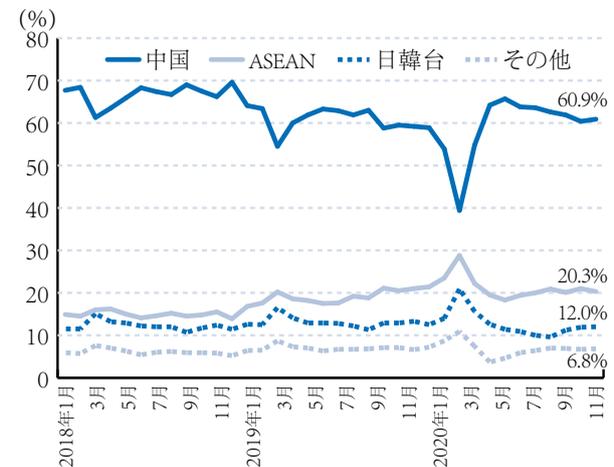
2020年の回顧

2020年初の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界経済に与えた影響が甚大で、海運においても影響が多岐にわたった。コンテナ輸送においては、北米航路、欧州航路、日中航路にも大きな影響が及んだ。一方、「米中貿易協議第一段階合意」により米中貿易摩擦が一旦の落ち着を見た。以下、航路毎に2020年のコンテナ荷動き全般を振り返ってみたい（注：荷動量は各統計機関の発表値を基に日本海事センターが取りまとめたもの）。

北米航路の荷動き状況

東航（アジア発）では、2020年年初は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中国出しのシェアが大幅に下落し、代わりにASEAN、日韓出しのシェアが上昇した。一方、中国の3月からの生産回復および米中貿易摩擦の緩和により、中国出しは急速に回復した（図1）。

図1: アジア/米国（東航路）積み地シェア推移（国・地域別）



出所：JOC/PIERS

2020年の中国出し貨物（含む香港、以下同様）は昨年の減少傾向から、前年比1.8%増の1,099万TEUと、増加傾向に転じた。ASEAN出しは前年比15.5%増と大幅に増加、2020年通期、アジア主要国のうち日本のみが前年比減少した。東航全体では、前年比3.9%増の1,833万TEUとなった。

上記のような背景として、前述した新型コロナウイルス感染症の感染拡大と米中貿易摩擦緩和以外に、前年度同様、アジアにおける生産地シフトの進行が考えられ、引き続き注意を払うべきである。この点を考察する目的で、2020年におけるアジア出しの国別・品目別積み高の変化を、下記通り表1で整理した。

表1: 2020年通年 中国出し主要品目とアジア主要国・地域出し荷動き動向
(上段:年間TEU、下段:前年比増減率)

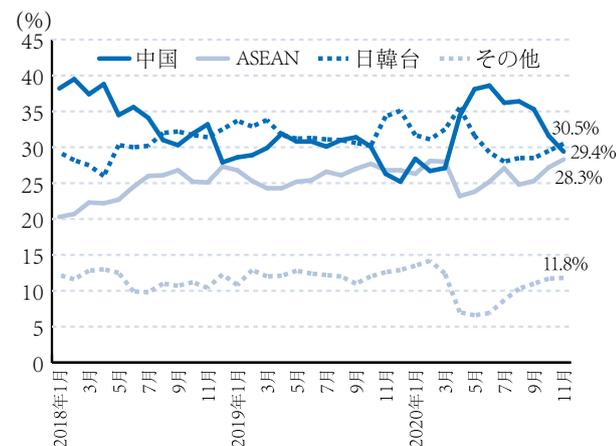
品目	中国	ベトナム	韓国	台湾	インド	その他	アジア合計
①家具・家財道具	1,597,993 0.7%	874,444 30.9%		75,423 27.7%	50,100 5.6%	415,289 37.0%	3,013,249 13.1%
②繊維・その製品	1,205,312 5.0%	241,028 2.7%	32,602 0.4%		178,327 5.4%	428,663 △3.4%	2,085,932 2.9%
③一般電気機器	1,080,843 29.2%	64,319 56.9%	171,749 52.8%			244,713 12.9%	1,561,624 29.4%
④床材などのプラスチック製品	671,042 2.3%	49,712 41.9%	32,790 3.8%	51,619 14.7%		60,508 △9.0%	865,671 3.8%
⑤玩具	526,281 △3.0%	30,219 25.3%				43,167 △13.7%	599,667 △2.8%
⑥履物・付属品	264,818 △21.6%	129,829 0.2%				72,876 △5.4%	467,523 △14.1%
⑦建築用具および関連品	321,526 2.1%			89,418 1.5%		95,322 17.1%	506,266 4.5%
その他	5,138,869 0.2%	595,854 30.1%	722,423 △1.8%	532,648 2.2%	569,093 △5.6%	1,673,472 △8.1%	9,232,359 △0.4%
合計	10,806,684 2.4%	1,985,405 24.8%	959,564 5.2%	749,108 5.0%	797,520 △2.7%	3,034,010 △0.8%	18,332,291 3.9%

出所: JOC/PIERS

2020年に米国での加熱する住宅需要と新型コロナウイルス感染症の感染拡大による巣ごもり需要(家具、日用品、家電製品、建材など)が顕著で、上位品目のうち、家具、一般電気製品は前年より大幅増加となった。前年同様、中国からの生産地シフトは今年も継続し、ベトナムにおける家具や床材、玩具、一般電気製品などの成長も著しい。

西航(アジア着)では、「米中貿易協議第一段階合意」により、大幅に減少していた中国向けのシェアは回復を示しはじめた。一方、春季以降世界中のコロナ禍の拡大により、中国以外のアジア各国向けは一時的に大幅減少したが、その後回復している(図2)。

図2: 米国/アジア(西航路)積み地シェア推移(国・地域別)



出所: JOC/PIERS

2020年11月末まで、中国向け貨物は前年同期比3.3%増の196万TEUで、3年連続の前年比減少から一転して増加した。一方、中国以外のアジア各国向け貨物は前年同期より減少し、11月までの貨物量は前年同期比5.5%減の597万

TEUとなっている。

中国向け貨物について、品目別の動向をみると、古紙類や金属スクラップ等の再生資源関係、および木材などの減少が継続している。近年環境保護のため固体廃棄物輸入規制が強化されており、その結果、米国からの紙類(特に古紙)や金属スクラップの輸入は減少した。

欧州航路の荷動き状況

西航(アジア発)について、全体では前年同期比5.4%減の1,576万TEUで、うち中国出しは3.4%減の1,171万TEU、東南アジア出しは7.9%減の230万TEU、北東アジア出しは14.6%減の175万TEUであった。

中国出しの品目動向について、2020年11月末の実績では、化学品以外はほぼ全て前年同期より減少した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生産停止の影響が大きいと思われる。なお、11月単月では機械類、電気機器、有機化学品などは前年同月比それぞれ20.8%、28.8%、13.6%増となっており回復基調となっている(表2)。

表2: 2020年11月末 中国出し主要品目

品目	11月単月輸入量(1,000t)/シェア	前年同期比	2020年11月までの輸入量(1,000t)/シェア	前年同期比
①機械類	585 (14.3%)	20.8%	6,009 (13.7%)	△6.9%
②電気機器、AV機器など	552 (13.5%)	28.8%	5,327 (12.1%)	△1.0%
③家具、寝具など	316 (7.7%)	2.0%	3,280 (7.5%)	△18.2%
④鉄鋼製品	265 (6.5%)	△4.4%	3,082 (7.0%)	△20.3%
⑤繊維類およびその製品	243 (5.9%)	△2.5%	2,650 (6.0%)	△20.7%
⑥プラスチックおよびその製品	209 (5.1%)	△1.5%	2,473 (5.6%)	△17.1%
⑦有機化学品	176 (4.3%)	13.6%	2,055 (4.7%)	0.1%
⑧石材、セメント製品など	150 (3.7%)	△1.2%	1,773 (4.0%)	△24.7%
⑨玩具、遊戯用具、スポーツ製品	142 (3.5%)	6.9%	1,357 (3.1%)	△16.6%
⑩自動車部品など	126 (3.1%)	10.2%	1,209 (2.7%)	△22.4%
上位10品目合計	2,764 (67.5%)		29,215 (66.4%)	
合計	4,097 (100.0%)	3.1%	43,984 (100.0%)	△15.0%

出所: EU貿易統計

東航(アジア着)では、全体では前年同期比0.3%増の819万TEUで、うち中国向けは6.8%増の474万TEU、東南アジア向けは8.4%減の189万TEU、北東アジア向けは6.2%減の157万TEUであった。

中国向けの品目動向について、木材、鉱石と野菜・穀物類の増加が目立っている。一方、塩、硫黄、土石等が30.7%減、木材パルプ、古紙などが15.5%減と大幅減少した(表3)。

表3: 2020年11月末 中国向け主要品目

品目	11月単月輸出量 (1,000t) / シェア	前年同期比	2020年11月までの輸出量 (1,000t) / シェア	前年同期比
①木材	1,596 (36.5%)	61.6%	14,620 (31.7%)	42.5%
②野菜、穀物、果実、採油用種子、茶など	620 (14.2%)	117.8%	5,147 (11.2%)	114.5%
③木材パルプ、古紙、板紙など	461 (10.6%)	14.4%	5,023 (10.9%)	△
④鉱石、スラッグおよび灰	60 (1.4%)	△	4,445 (9.6%)	53.0%
⑤肉および食用のくず肉、酪農品、魚介類など	444 (10.2%)	4.0%	4,270 (9.3%)	29.3%
⑥塩、硫黄、土石類、石灰およびセメントなど	201 (4.6%)	0.6%	1,727 (3.7%)	△
⑦プラスチックおよびその製品	149 (3.4%)	4.1%	1,626 (3.5%)	7.8%
⑧調製食料品、飲料、アルコール、食酢など	148 (3.4%)	18.6%	1,379 (3.0%)	△
⑨有機化学品	77 (1.8%)	4.3%	1,128 (2.4%)	26.2%
⑩機械類	91 (2.1%)	13.0%	972 (2.1%)	△
上位10品目合計	3,847 (88.1%)		40,337 (87.4%)	
合計	4,369 (100.0%)	15.0%	46,153 (100.0%)	21.0%

出所: EU貿易統計

木材の増加については、中国国内の環境保護政策により、木材輸入に注力したと考えられる。野菜・穀物類については、中国国内の需要によりウクライナからの穀物輸入が増加したことが大きな要因の1つと考えられる。

日中航路の荷動き状況

日本出し貨物は前年比1.8%増の989万7,000トンで、中国出しは前年比8.3%減の1,972万6,000トンとなった。中国の固体廃棄物輸入規制の強化により、2019年に続き古紙類の減少が続いている。銅関連製品および機械類に関しては、中国のインフラ（住宅、公共施設、鉄道、5Gネットワークなど）需要により、中国国内の銅への需要が急激に上昇したための増加と考えられる（表4）。

表4: 2020年通年 中国向け主要品目

品目	12月単月輸出量 (1,000t) / シェア	前年同期比	2020年通年輸出量 (1,000t) / シェア	前年同期比
①木材パルプ、古紙、板紙など	126 (13.5%)	△	2,094 (21.2%)	△
②プラスチックおよびその製品	219 (23.4%)	19.6%	2,028 (20.5%)	12.9%
③機械類	96 (10.3%)	12.5%	919 (9.3%)	0.2%
④鉄鋼	54 (5.8%)	7.1%	530 (5.4%)	△
⑤銅およびその製品	56 (6.0%)	74.3%	527 (5.3%)	47.3%
⑥有機化学品	46 (4.9%)	22.9%	460 (4.6%)	0.7%
⑦自動車部品など	39 (4.2%)	△	384 (3.9%)	△
⑧石けん、有機界面活性剤、調製潤滑剤、ろう等	28 (3.0%)	△	272 (2.7%)	△
⑨ゴムおよびその製品	23 (2.5%)	△	221 (2.2%)	△
⑩電気機器、AV機器など	21 (2.2%)	17.3%	210 (2.1%)	8.7%
上位10品目合計	708 (75.7%)		7,645 (77.2%)	
合計	935 (100.0%)	8.7%	9,897 (100.0%)	1.8%

出所: 財務省貿易統計

2021年の展望

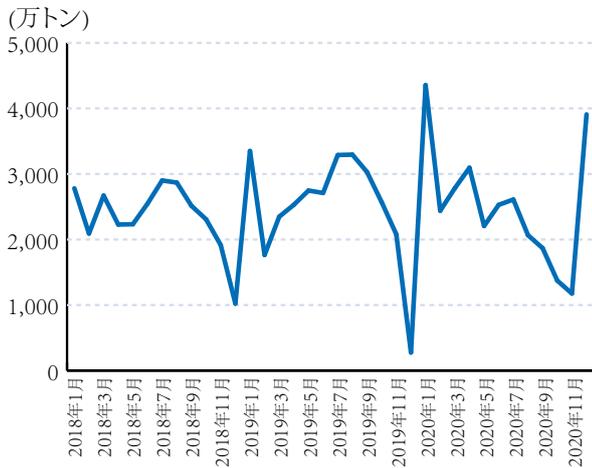
2020年夏場以降、新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響の反動によりコンテナ荷動きは急回復したが、その需要カーブはコンテナ船スペース供給量を上回り、主要出荷地であるアジア各国で積残しが多数発生した。また新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響により、コンテナ機器（箱）の回転日数が増加し、空コンテナの回送が間に合わず、アジア各国でコンテナ不足が発生した。2021年2月の春節までには落ち着くのではないかとの予想もあったが、掛かる状況に大きな変化はなく、欧米の新型コロナウイルス感染症による感染拡大の状況次第では、この混乱は今後も継続するという見方がある。

バルク輸送の動向

2020年の回顧

2020年、中国のドライバルク需要の成長は著しかった。輸入量は前年比5.2%増で、鉄鉱石は前年比9.5%増の11億7,000万トン、大豆は前年比13.3%と大幅に増加し、1億トンと初めて1億トン台になった。石炭は輸入割当制度のため、2020年6月以降減少したが、12月に急増して通年では前年比1.5%増の微増となり、初めて3億トン台に達した（図3）。

図3：中国の石炭輸入量推移



出所：中国海関統計

大型船について、2020年上半期には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響からの中国市場の回復から、中国国内の旺盛な鉄鋼需要を背景に、鉄鉱石の輸入も増加し、ブラジルと豪州からの輸入が増加したため、市況が好調となり、年末まで底堅く推移した。

中小型船について、上半期は豚インフルエンザから回復した養豚業の活況により、飼料需要が上向いた。その結果、ブラジル出しの大豆および米国出しのトウモロコシが好調となり、中国向けの荷動きが増えた。一方、下半期は、石炭の輸入が輸入割当の影響により減少し、市況は不安定な動きとなったが、その後、豪州産石炭の代替としてのインドネシア、ロシア、フィリピンからの輸入が増え、中小型船の市況も回復した。

2021年の展望

新型コロナウイルス感染症による影響からの復興が続いている中、2021年の展望は以下の通りである。

中国冶金工業計画研究所は、2021年の粗鋼生産量を前年比5.4%増の10億6,500万トン(2020年実績10億5,300万トン)と予測し、鉄鉱石の輸入量は前年並みの11億4,000万トンと予想している。石炭は国際価格が国内価格に比べて割安な状況であったが、中国は2030年までにGHG排出規制を満たすよう、今後数年間、石炭の使用量を大幅に減少させる可能性も否定できず、見通しがきかない状況であるが、アルミニウムの原料であるボーキサイトの需要が高まるのではないかの見解もある。実際に2020年のボーキサイトの輸入量は1億1,000万トンと前年比10.2%の増加となっている。穀物に関しては、養豚業の成長に伴い、中国の大豆、トウモロコシ需要が堅調を維持するため、輸入量が大幅に減少することはないと予想されている。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が世界経済に深刻な影響を与えており、現在その影響がいつまで続くか、ワクチンの効果・普及がどれほど進むかなど、不確定要素がないと言えない。海上荷動きに与える影響を予測することはまだ困難であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は収束する傾向での展望としたい。

<建議>

中央政府・地方政府関係部門から示される貿易上の制限、新型コロナウイルス感染症影響下の配乗も含めた海運関連の規則の変更について、円滑に対応していくためにはある程度の準備期間が必要となるため、具体的に詳細な規則・要領等をできるだけ前広に明示していただけるよう要望する。